エイズ通信　VOL．１５

エイズとソーシャルワーク委員会

平成 28 年 6 月 11 日（土）に福島県医療ソーシャルワーカー協会エイズとソーシャルワーク委員会主催でエイズ研修会を開催しました。今回は千葉大学医学部附属病院地域医療連携部の葛田衣重氏、社会福祉法人はばたき福祉事業団事務局長の柿沼章子氏、厚生労働省医薬品副作用被害対策室の山田敏之氏、郡山市保健所地域保健課感染症係の鈴木里恵子氏からご講演をいただきました。

郡山市保健所の鈴木氏からは、郡山市のＨＩＶへの取り組みとその現状についてらご講演をいただきました。

郡山市のＨＩＶ抗体検査の特徴として県外からの検査が多いこと、夜間に検査を行っていることがあげられました。

平成２７年度の受検者数は郡山も全国も減っている状況です。話題がないと検査する人が減ってしまうようです。数年前に献血でＨＩＶ感染が発覚したニュースで検査数が増えた背景がありました。

講演会の参加者からの意見で、陰性ありきの検査になっていないか、その先の陽性になったときのことも考える必要がある、サポートがしっかりあるとわかればもっと早く検査に行けるかもしれないといった意見が出たとのことでした。

感染者は異性間との性行為では全国は1/3、郡山市は2/3の割合。地域柄、セクシャルマイノリティを隠すために異性間と答えている可能性があるかもしれないとのことでした。

次に、厚生労働省の山田氏からは、血友病薬害被害者手帳についてご説明いただきました。制度を知らないことにより、本来支払わなくてもよい医療費を支払うようになってしまう等、実際の現場で問題となっている例も交えながらご説明いただき、ソーシャルワーカーとして支援する上で、変わっていく制度をしっかりと熟知していくことの重要性を改めて感じました。拠点病院には通知しており、厚生労働省ホームページにも載せてあるとのことですので、それぞれご確認ください。

社会福祉法人はばたき福祉事業団の柿沼氏からは、血友病薬害被害者の現状と課題についてお話いただきました。被害者の方への聞き取り調査からの結果を下に、実際の事例もいくつかご提示いただきながら、講演いただきました。医療機関の治療水準の不均等、長期療養の視点の不足、地域での差別偏見への恐怖感等の課題がある中で、地域で安心・安全な療養生活を送るために、多職種連携、医療・介護との連携、患者だけでなく家族を含めた支援の重要性を強く感じた講演でした。

千葉大学の葛田氏からは、ＨＩＶ陽性者の支援経験からの現状と課題についてお話をいただきました。千葉大学医学部附属病院では、千葉県のエイズ診療中核拠点病院として、平成１５年から中核拠点病院として治療を開始しています。ここ数年は年間累計２２０～２４０人で推移し、

その患者の相談に対応しているとのことで、男女比は８：２で男性が多く、年齢構成でみると、約７割が４０歳以上を占めているとのことでした。ＨＩＶ治療の進歩により、陽性者の生命予後は改善し、通常の生活が送れるようになった今、患者の高齢化や、生活習慣病の発症、非 HIV 疾患によるターミナル等、要介護状態となる患者さんがみられるようになったことに対し、地域の社会資源との連携は全国的にも十分であるとはいえない現状があります。葛田氏からは、その実践も通して見えてきた課題等を分かりやすくお話いただきました。在宅、転院、施設入所、それぞれの実践の中で、使えるはずの社会資源がＨＩＶ陽性者というだけで断られてしまうという現状、その中で連携機関への出前研修等を行いながら、ネットワークを構築していった過程のお話を伺い、この地域には一緒に患者を支えていける協力者がいるのだろうか、社会資源があるのだろうか、患者の高齢化が進んでいる今、どの医療機関、施設等でも直近で課題となってくるのではなかと考えさせられました。また HIV 陽性者が必要なサービスを適切に利用できるよう、組織、専門職、地域、行政への効果的な働きかけが必要であり、ミクロレベルだけでなく、メゾ・マクロの視点で考えていくソーシャルワークの視点が重要であると実感する講演でした。

エイズとソーシャルワーク委員会では、今後もこのような講演会を企画していきたいと思います。講演で学んでみたいこと等があれば、各拠点病院の委員までご連絡いただければと思います。

【エイズとソーシャルワーク研修会アンケート集計】計２８件

○講演１の研修内容はいかがでしたか？

①よかった(２８)

○今後の業務の中で役に立つ内容でしたか？

①役に立つ(２７)

②どちらともいえない(１)：問い合わせがあるのか不明

○講演２の研修内容はいかがでしたか？

①よかった(２８)

○今後の業務の中で役に立つ内容でしたか？

①役に立つ(２８)

○今後研修などで話を聞いてみたい内容

・HIV/AIDS に関する基礎知識についての内容・高齢者支援、CM との連携について知りたい。

・HIV の方の支援についてや、他の地域や全国の支援についてなど学びたい。

・県内の拠点病院や実際どのような対応をしているのか・地域での SW 支援について知りたい。

・HIV 患者の発病～治療経過～社会復帰について・支援者側の関わりについて。

・本人の精神的変化など。具体的な支援経過について知りたい。

○研修の感想など

・郡山市内の HIV 抗体検査受検の現状と相談内容について学び、不安の訴えが多くそこに対してのサポート体制を作ることが重要だと感じた。

・自分の知識の未熟さを知り、更に勉強が必要と認識することができた。

・HIV に関する知識がほぼなかったが、根本的なところから支援まで幅広く聞くことが出来てよかった。

・先日参加したエイズキャンペーンで実際にどのくらいの人が検査をしたのか知ることができた。

・薬害被害の深刻な現状、障害福祉サービス内容を学ぶことが出来た。このような患者に対する支援方法が分からなかったため窓口やサービスを理解しておくことも大切なことだと感じた。

・今後目の前に HIV 患者が現れた時のために社会資源など情報を得ておこうと感じた。

・予防と現状の観点から HIV 患者の不利益のないよう使える制度があることが分かった。

・所属機関は拠点病院であり、療養型や回復期リハビリ、透析、在宅の事業所もあるため院内連携を強化するために話題にしていきたい

・どのようなことが生活の中で問題になっていて、どのような社会資源が

必要なのかを改めて考えることが出来た。

・血友病、HIV 患者の方とまだ接したことがないが、今後対象の患者が介護も必要となってくる年代になると分かり、接する機会があるかもしれないと感じた。その機会がいつになるか分からないがまずは血友病、HIV についてより理解を深めなければならないと感じた。

・対象者を問わず、どのような支援が必要かしっかりと状況を把握し理解を深め実践していくことが SW として必要なことだと感じることができた。

・SW として取り組むべき方向、課題も確認できた機会となった。

・回復期・維持期の立場として感染症の方への対応がまだ不十分であると思った。HIV に対する施設入所など今まで実例がないことを確認でき有意義な研修となった。

・薬害 AIDS のニュースは前々から見たことがあったが、その方々への支援や SW が関わっていくべきことがある旨、再確認した。

・HIV 患者へのソーシャルワークというものが漠然としたイメージから更に具体的なものになった。

・福祉の立場としての患者支援への期待も持たれていることを聞き、支援す　る上で知識不足と痛感したため今回の研修を活かしていきたい。

【ＨＩＶ検査普及啓発街頭キャンペーンに参加して】

去る６月５日（日）に郡山保健所主催のＨＩＶ検査普及啓発街頭キャンペーンが郡山駅前で行われ、福島県医療ソーシャルワーカー協会もボランティアとして参加しました。当日は天候にも恵まれ、休日ということもあり、たくさんの方が駅前広場に足を運んでいました。

ボランティアとして福島県医療ソーシャルワーカー以外に高校生、看護学生、ビューティーファッション専門学生の方々が参加し、ダンスやレッドリボンネイルのイベントの他、啓発グッズの配布やアンケートを実施し、ＨＩＶ即日抗体検査の呼びかけも行いました。

アンケートを実施していく中で、時間が無く、なかなか足を止めてもらえないこともありましたが、協力していただいた方からは、ＨＩＶの事を全く知らない、学校で聞いたことがある、知っているけど検査はしたことないなど、年代によって様々な声が聞かれました。ＨＩＶのことや検査について幅広い年代に知ってもらえるように、今後も啓発活動を続けていかなければならないとボランティアを通じて感じました。

今後は一人でも多くの方に知ってもらえるようにこういった活動に積極的に参加していきたいと思います。

太田熱海病院　　伊藤　茉耶